

**製品名: SREBP-1 (リン酸化 Ser439) ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab05468**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	人間、ネズミ
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:10000
分子量	122kDa

**抗原情報**

遺伝子名	SREBF1
別名	SREBF1; BHLHD1; SREBP1; Sterol regulatory element-binding protein 1; SREBP-1; Class D basic helix-loop-helix protein 1; bHLHD1; Sterol regulatory element-binding transcription factor 1
遺伝子 ID	6720.0
SwissProt ID	P36956
免疫原	抗血清は、Ser439 のリン酸化部位周辺のヒト SREBP-1 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 405-454

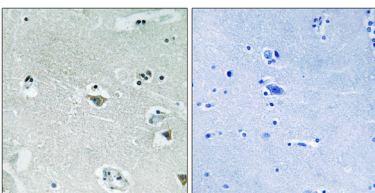
## 背景

この遺伝子は、ステロール調節エレメント 1 (SRE1) に結合する転写因子をコードしています。SRE1 は、低密度リポタンパク質受容体遺伝子およびステロール生合成に関与するいくつかの遺伝子を挟む 10 量体です。このタンパク質は、核膜および小胞体に付着した前駆体として合成されます。切断後、成熟タンパク質は核に移行し、SRE1 に結合して転写を活性化します。ステロールは前駆体の切断を阻害し、成熟した核型は急速に異化されるため、転写が抑制されます。このタンパク質は、塩基性ヘリックス-ループ-ヘリックス-ロイジンジッパー (bHLH-Zip) 転写因子ファミリーに属します。この遺伝子は、17 番染色体のスミス・マゲニス症候群領域内に位置しています。[RefSeq 提供、2016 年 3 月],代替製品:追加のアイソフォームが存在するようです,機能:脂質恒常性に必要な転写活性化因子。LDL 受容体遺伝子の転写と脂肪酸の転写を制御し、コレステロール合成経路もより低い程度に制御します (類似性による)。ステロール調節エレメント 1 (SRE-1) (5'-ATCACCCAC-3') に結合します。E ボックスモチーフ (5'-ATCACGTGA-3') と SRE-1 (5'-ATCACCCAC-3') の両方に結合する二重配列特異性を持ちます。、オンライン情報:ステロール調節エレメント結合タンパク質の進入,PTM:低コレステロールでは、SCAP/SREBP 複合体が COPII 小胞にリクルートされ、ER から輸出されます。ゴルジ体において、SREBP はサイト 1 およびサイト 2 プロテアーゼによって順次切断される。サイト 1 プロテアーゼによる最初の切断は内腔ループ内で起こり、サイト 2 プロテアーゼによる 2 回目の切断は最初の膜貫通ドメイン内で起こり、転写因子はゴルジ膜から遊離する。アポトーシスはシステインプロテアーゼであるカスパーゼ 3 およびカスパーゼ 7 による切断を誘発する。、配列注意: イントロン保持。、類似性: SREBP ファミリーに属する。、類似性: 1 つの塩基性ヘリックス-ループ-ヘリックス (bHLH) ドメインを含む。、細胞内局在: ステロール非存在下で小胞体からゴルジ体へ移動する。、サブユニット: ER 膜において SCAP と強固な複合体を形成する。可溶性転写因子フラグメントが効率的に DNA に結合するには、別の bHLH タンパク質との二量体形成が必要である。LMNA と相互作用する。、組織特異性: 多様な組織で発現し、肝臓と副腎に最も多く存在する。胎児組織では、肺と肝臓で最も高い発現を示す。アイソフォーム SREBP-1C は肝臓、副腎、卵巣で優勢であるのに対し、アイソフォーム SREBP-1A は肝細胞癌細胞株で優勢である。アイソフォーム SREBP-1A とアイソフォーム SREBP-1C は腎臓、脳、白色脂肪組織、筋肉に認められる。、

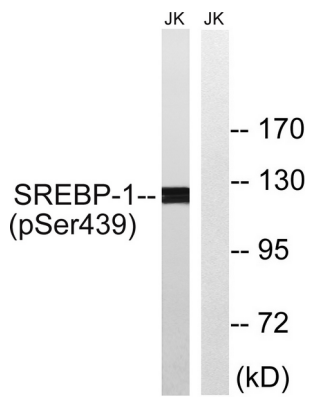
## 研究分野

AMPK; タンパク質アセチル化

## 画像データ



SREBP-1 (リン酸化 Ser439) 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト脳の免疫組織化学染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。



TNF 20 ng/ml 30 $\mu$ g 処理した Jurkat 細胞ライセートの SREBP-1 (リン酸化 Ser439) 抗体を用いたウェスタンブロット解析。右レーンはリン酸化ペプチドでブロッキングされている。